
【編集後記】『現象と秩序』第14号をお届けします。この度、投稿規定・執筆要領の改訂をおこないました。本誌では創刊以来、すべての論考について編集委員の査読を経て掲載してきましたが、その旨を明示しました。詳しくは本誌73～76頁に掲載されている「投稿規定・執筆要領」をご確認ください。

さて、今回も方法・内容ともに多種多様な論考が掲載されています。

第1論文のテーマは「試着」。近年ではヴァーチャルな試着も部分的に可能になっていますが、そもそも私たちは衣服をどのように着ているかをビデオ・エスノグラフィーの手法で分析する重要性に気づかせてくれます。第2論文のテーマは「セクシャル・ハラスメント」。性被害のなかでもある意味で特殊なこの現象を定義づけることの難しさを、「公／私」「客観／主観」を区別する認識の問題から切り込み、被害者の語りがそうした認識の問題を乗り越える「戦術」的な抵抗となりうる点を示しています。第3論文のテーマは「ヒアリング・ヴォイシズ運動」。日本における同運動の輸入過程で生じた説明の変化をつぶさに追いながら、聴声当事者へのスティグマ付与に抗するパッシングと、一貫した当事者利益の可能性が見出されています。第4論文のテーマは「罵り言葉」。大阪方言における罵りの意を持つ助動詞の違いを待遇表現の観点から読みとくことで、たんに言葉自体の強さだけでなく関係性における意味の違いを明らかにした論考です。第5論文のテーマは「人権社会学」。『〈当事者宣言〉の社会学』（2021年、東信堂）を、日本ではまだ馴染みのない「人権社会学」の書として読むと、どのような視座が拓かれてくるかが考察されています。

いずれも日常生活に気づきをもたらしてくれる論考です。ぜひご堪能ください。（H.Y.）

『現象と秩序』編集委員会（2021年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（愛知学泉大学）

編集委員：樫田美雄（神戸市看護大学）、中塚朋子（就実大学）

編集幹事：川上陵哉（神戸市外国語大学）

編集協力・印刷協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第14号 2021年 3月31日発行

発行所 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学 樫田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 078-794-8074（樫田研）、e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>